

ANNUAL REPORT 2017

2018年1月期 アニュアルレポート



目次

社長挨拶	_____	3 ページ
財務ハイライト	_____	4 ページ
事業概況	_____	6 ページ
組織図	_____	8 ページ
企業活動 (CSR)	_____	8 ページ
会社概要	_____	13 ページ
沿革	_____	14 ページ



経営理念 『自然と人間が^{みんな}いっしょに幸せになる仕事』

社会・経済構造が劇的な変化を遂げ、確たる指標なき時代、企業は自身の哲学を掲げることによって自らの道を切り拓かねばなりません。哲学のない企業に未来を創造することはできない。

—— 私どもが自ら質すなかで出した答えは

「自然と人間（みんな）がいっしょに幸せになる仕事」というキーワードです。

ここにはく地球環境・お客様・ビジネスパートナー・社員とその家族・株主＞という5つのステークホルダーとの共存共栄が謳われています。この5つのステークホルダーとの共存による「幸せの輪」の創造こそ、私どもが目指す企業像です。

たとえば、どんなに企業の利潤が上がっても、その事業が地球の環境破壊を引き起こしていたり、社会倫理に反していたりしたら、その企業は優良と呼べるでしょうか。そこに働く社員や家族は幸福と言えるでしょうか。ひとりひとりの社員が、自分の仕事がお客様に喜んでいただける、社会に貢献していることを実感できてはじめて自らの仕事に誇りと責任感を持つことができます。そして、その責任感はビジネスパートナーとの相互信頼を育み、共に成長しお互いの事業の成功と発展にもつなげられるのです。さらに事業の成功は利潤を生み、株主の皆様にもご満足いただくことができると考えます。

白崎コーポレーションはこの「幸せの輪」の実現に向けて、ここに掲げた経営理念をすべての企業活動の礎とするべく胸に刻み込み、社会から尊敬される企業となれるよう、そしてトップを含め社員みんなが夢を語り合える企業となれるよう、今後も自らを厳しく律しながら挑戦を続けてまいります。



経営方針

- 一、 私たちはいつも環境に心を配り、地球の繁栄につくしていきます。
- 一、 私たちは顧客満足度の向上に努め、お客様の信用をたかめていきます。
- 一、 私たちはビジネスパートナーと共に歩み、確かな信頼関係を築いていきます。
- 一、 私たちは日々の仕事を通して自己を高め、豊かな未来をつくっていきます。
- 一、 私たちは適正な利潤を追求し、株主のみなさまの期待に応えていきます。



ミッション・ビジョン

ミッション 私たちは事業を通じて社会に貢献できる人を育てます。

ビジョン 全社員が自分の会社に誇りを持てるような最高の中小企業になります。



社長挨拶

「2017年度（63期）を振り返って」

代表取締役社長 白崎 弘隆

昨年は将棋の藤井聡太君（当時四段）が中学生で29連勝を成し遂げ、また陸上の桐生祥秀選手が100m走において日本人で初めて10秒を切る9秒98という記録を出すなど、嬉しいニュースもありました。特に桐生選手が記録を出した場所が本社所在地の福井県にある福井運動公園陸上競技場ということもあり、妙にうれしかった記憶があります。

一方、政治の世界では北朝鮮が核・ミサイル開発を加速させてアメリカを挑発するような状況が続き、当社の社員も万が一の状況を恐れて、韓国への出張を自粛するような事態にもなりました。また、日本の政界では森友問題、加計問題、日報問題と後ろ向きの議論ばかりで、国会が空転しているような状況でした。

このような状況の中で当社は昨年同様に苦戦が続いています。63期はサプライビジネス事業部では売上高ダウンで経常利益アップ、グリーンナップ事業部では売上アップで経常利益若干ダウン、そして全社では売上高は微増で経常利益はほぼ横ばい、という結果になりました。サプライビジネス事業部では昨年に続き厳しい業界事情の中、経費を抑え経常利益を増やすことができましたが、この市場に今後の成長はあまり見込めません。一方、グリーンナップ事業部では2、3年前から新市場の開発に力を入れていますが、まだ成果が十分に出ていない状況です。できるだけ早い時期に良い市場に育てることがこの事業を大きく伸ばすための課題であります。また、ヤマト運輸に始まる運賃の値上げに関しては当社にとっても非常に重大な影響をもたらしています。運賃上昇に対する様々な対策を行っていますが、お客様へのご理解も得る必要があると思えます。

昨年問題になった電通の過労死問題は「働き方改革」という形で各企業の大きな課題になっており、今後は当社でも組織的に対応していく所存です。また、ここ数年は新卒社員を多く採用していることもあり、社員教育の重要性が増してきています。若い社員をできるだけ早く戦力になるように組織的な教育が必要だと考えていますので、今後は様々な手段を用いて効果を上げていきたいと思っています。


 財務ハイライト

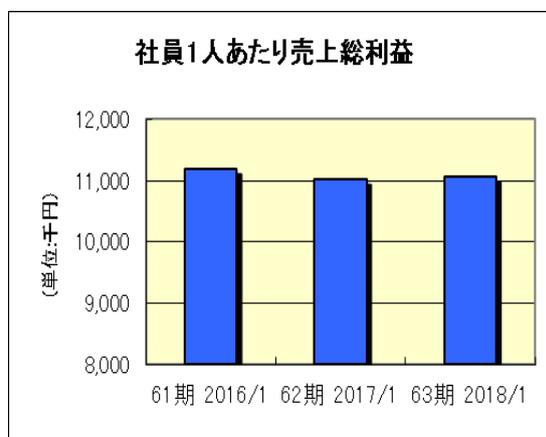
	単位	61期 2016/1	62期 2017/1	63期 2018/1
売上高	千円	3,848,087	3,860,205	3,959,322
売上総利益	千円	1,420,283	1,420,122	1,491,153
売上総利益率	%	36.9%	36.8%	37.7%
経常利益	千円	217,141	184,231	187,723
経常利益率	%	5.6%	4.8%	4.7%
総資産	千円	2,791,566	2,429,770	2,660,315
自己資本	千円	1,321,369	1,123,895	1,183,684
自己資本比率	%	47.3%	46.3%	44.5%
総資産経常利益率	%	7.8%	7.6%	7.1%

2016年1月期から2018年1月期までの当社の決算の数値を掲載しています。

売上高につきましては、再生トナーカートリッジや事務用消耗品の販売を行うサプライビジネス事業では、競合他社との価格競争の影響もあり18億9,909万円と前期比2.5%の減収となりました。また、防草シートや緑化資材の販売を行うグリーンナップ事業では、公共事業、通信販売とも好調で20億2,138万円と前期比7.9%の増収となりました。これらに太陽光発電事業の売電収入を含め、全体では39億5,932万円と前期比2.6%の微増となりました。

利益面につきましては、防草シートや緑化資材の売上増に伴い売上総利益は5%増加しましたが、社員採用や研究開発など将来に向けた投資もあり、経常利益は1億8,772万円、前年とほぼ横ばいとなりました。

今期はお客様のニーズを満たす独自性のある商品・サービスを開発して提供し、お客様に選ばれるものづくり企業を目指していきます。



 事業概況

■グリーンナップ事業部

常務取締役グリーンナップ事業部長 中川 豪

グリーンナップ事業部の2017年度は初めて売上が20億円を超えましたが、計画対比では未達成という結果となり2016年度同様に苦戦が続いて多くの課題が残る年度となりました。

現在のグリーンナップ事業部を取り巻く環境は、市場規模は拡大しているものの新規参入する会社が増え、防草シートの類似品や代替品が出回り、また量販店や通販でも買い求めやすくなったため競争が激化していると感じています。そのような中で、当社の主力商品である「チガヤシート」「目地バリシート」が国土交通省のNETIS（新技術情報提供システム）から掲載終了したことは今後の大きな変化要因です。また、運送業者の配送費の値上げも大きく利益を圧迫する要因となっています。これらのマイナス要因に対応しながらも引き続きお客様との信頼を高めファンを増やして成長していくために、商品の品質だけでなくサービスの品質の向上にもしっかり取り組んでいきます。

2018年度のカatalogから「白崎コーポレーションからの3つの約束」ということで弊社の活動ポリシーを掲載しています。

- ① 現場の調査診断を行い、問題解決法の最適化を図ります。
- ② 商品品質のみならず、現場品質を向上させ、お客様の満足を高めます。
- ③ 現場のモニタリングを行い、安心を提供します。

①は商品を販売する前に現場調査を行い現場状況やお客様のニーズにあった最適な提案を行うこと、②は商品を正しく施工してもらってこそ効果があることを理解していただくために、施工マニュアルの充実や施工時の立ち会いを通じてそのポイントを的確にお伝えすること、③は商品を販売した後でも自然環境の中で変わっていく現場状況を定期的に見守り、お客様に安心と信頼を提供することを意味しています。これらは非常に手間がかかるため決して効率は良くありませんが、ここにこそ白崎らしさがありお客様との長期的な関係を築き、競合との優位性に繋がると信じています。

近い将来に向けて全社で取り組むべき課題は、社員教育と次の柱となる商品や事業を育てることです。近年は新卒採用に力を入れ多くの若い社員が仲間となりましたので、白崎の社員として基本に忠実にそして誠実に、人間性を高めて活躍できるよう全社をあげて教育して行きたいと考えています。また、現在の主力商品に割り込めるような新規性のある商品もリリースしました。つる性雑草の侵入を防ぐ「つるガード工法」、高い耐久性を持つ「チガヤシートGUタイプ」、そして耐久性と重量感を兼ね備えた「マクレーンシート」です。これらの新商品の実績作りと販売強化がこれからの事業部や会社の成長に繋がると考えています。

■ サプライビジネス事業部

取締役サプライビジネス事業部長 相澤 英昭

サプライビジネス事業部の2017年度を振り返ると、収益の柱としているリユーストナーカートリッジの市場は依然として厳しい状況が続いていますが、その中でも当社の独自性を強化することで前期同様一定の利益を残すことが出来ました。

現在のリユーストナーカートリッジ市場は、ペーパーレス化やプリンタの設置台数が減少傾向になっている影響から成長の伸びが鈍化しています。その結果同業者間でのお客様の取り合いが増え、価格競争が激化しています。また、海外から流入してくる模倣品やコンパチ品、すなわちリユーストナーカートリッジとは異なり全てのパーツを新たに製造して組み立てた違法性の高い製品が増えていることも、価格競争を助長する一因となっています。さらに原材料の高騰や運送費の値上げなど、収益を圧迫する要因も増えてきています。このような市場環境の中で当社としては同業者との差別化を図ることが重要な課題であるという認識から、ここ数年は当社の独自性強化に注力してきました。

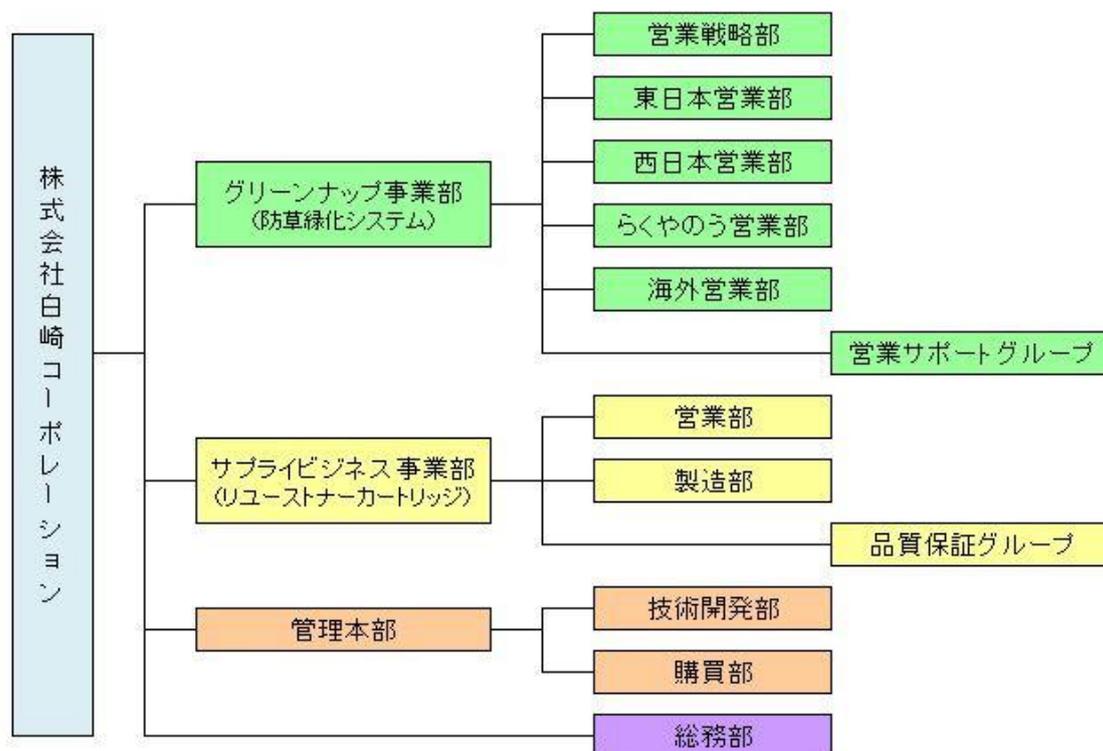
特に注力した点は不具合発生低減です。リユーストナーカートリッジは企業の経費削減や環境負荷低減に貢献できる素晴らしい製品ですが、一方で純正品として一度使用した筐体や一部のパーツを再利用することから純正品に比べ若干不具合が発生しやすいという側面があります。不具合が発生した際のアフターフォローはもちろん重要であり、当社でも不具合発生受付から代品出荷まで出来るだけスムーズな対応が取れるような組織体制の構築を行っています。しかし不具合発生はお客様の手を煩わせるだけでなく当社の効率化も阻害する一因となるため、本来は可能な限り発生させないことが望ましい状態だといえます。そのためお客様からのご指摘内容を営業がしっかりと吸い上げ、社内で情報共有し製販一体となった改善を強化してきました。その結果直近2年間で不具合発生率を約25%低減させることが出来ました。不具合発生低減の活動に終わりはありませんが、お客様が安心してご使用いただけるよう今後とも着実に改善してまいります。

また、お客様の使用環境に即した提案も継続して進めています。お客様がプリンタを使用する頻度や出力データの内容、出力物の使用用途など様々な聴き取りをさせていただき、お客様に最適な提案が出来るよう心がけています。場合によってはお客様先でのサンプルテストや当社内での評価テストなどを行い安心してリユーストナーカートリッジをご使用出来る環境をご提案いたしますので、ご興味ございましたらお気軽に弊社へご一報ください。

今年度も上記取り組みを更に強化しながら、お客様の経費削減と利便性向上ならびに業界の発展に尽力してまいりますので引き続きご支援、ご指導よろしく願いいたします。



組織図




CSR（企業活動）

先進国では社会が豊かになるに従い、経済成長以外のさまざまな価値観が生まれ、企業評価の指標として、法律や制度で定められた範囲を超えて「よりよい行動」をすることを望ましいとする傾向が生まれています。当社では、経営理念および経営方針として企業活動をめぐる5つのステークホルダー（地球環境・お客様・ビジネスパートナー・社員とその家族・株主）との共存共栄を、また、ミッションとして社会に貢献できる人財育成を掲げて、CSR活動体制の整備と強化を行っています。企業に求められる社会的責任の内容は、時代とともに変化していきます。積極的な働きかけにより地域社会の抱えている問題を十分認識したうえで、事業を通じて蓄積したノウハウや能力を社会に還元し、問題解決に貢献していくことが、地域社会からの信頼につながるものと考えています。

【1】法令及び企業倫理の遵守

■企業倫理

2001年に企業倫理の徹底を図るため、以下の5項目からなる「倫理二十五箇条」を制定しました。

1. 職場環境
2. 5S活動
3. 環境
4. 営業・業務活動
5. 会社資産の保護

これを社員全員が「経営理念」「経営方針」といっしょに毎日の朝礼で唱和をすることにより、理解の徹底から実行を図っています。

■お客様情報及び個人情報の管理

社内の情報管理につきましては、以下の5つのセキュリティールールを定め、情報管理研修を実施するとともに全社員から誓約書を徴収し、情報漏洩の未然防止を図っています。

1. パソコンの利用に関するセキュリティールール
2. 外部媒体の利用に関するセキュリティールール
3. メール利用に関するセキュリティールール
4. インターネット利用に関するセキュリティールール
5. 白崎ネット（当社グループウェアシステム）へのアクセスに関するセキュリティールール

また、特に個人情報の取扱いにつきましては、その取得から利用、開示、利用停止、消去に至る詳細な運用ルールを定め、個人情報の保護に努めております。

【2】社会性報告

1. 社員とともに

当社の使命は「事業を通じて社会に貢献できる人を育てる」ことであり、そのためには「社員は財産（人財）」と考えています。社員が安心して働ける環境を整え、自ら考え、学び、行動できるような様々な制度や仕組みを作り、社会に貢献できる人づくりを推進しています。

■新卒採用 ～若いフレッシュな感覚に期待～

2007年から新卒採用活動を積極的に推進しています。若手社員をリクルーターに選抜し、彼らを中心に会社説明会や面接等を運営しています。2016年4月に6名、2017年4月に7名、2018年4月に8名の有望な人財を採用することができました。

■社員教育

社員の能力開発と挑戦する組織風土の形成を目指して、2005年度に教育体系をOJT・集合研修・自己啓発の三本柱として再編成を行い、2006年度から本格的な社員教育を実施しています。社員教育の基本は職場における指導・育成であるOJTにありますが、OJTでは補い切れない能力開発の場として階層別やテーマ別の社内研修を推進しています。2017年度は、管理職を対象としたマネジメント力向上研修を、外部講師を招いて実施しました。

また、通信教育受講や社外研修等参加の費用補助も実施しており、社員の積極的な自己啓発の取り組みを支援しています。

■ビジネスキャリア検定試験と公的資格 ～専門能力と管理能力～

自己啓発の動機付けと取得能力を評価・測定するツールとして、「ビジネスキャリア検定試験」の受験を推奨しており、春と秋に実施される試験には毎年多くの社員が受験しています。合格者は社内の掲示板に掲載し昇格試験にも活用しています。例えば、部長クラスであれば職務分野2級1科目以上および共通分野（労務管理、経営戦略など）3級1科目以上の合格が必須となっており、専門能力と管理能力の両面の自己啓発が要求されます。また業務に関連した公的資格への挑戦も奨励しており、難易度に応じてビジネスキャリア検定合格と同等の評価をしています。

■目標管理制度 ～目標は自分で考え、決めて、実行～

当社の目標管理制度は、社員一人ひとりがそれぞれの部署の目標をもとに上司との話し合いを通じて自分の仕事の目標を立てて計画的に取り組み、上期・下期の年2回達成度合を評価する制度です。個人の目標は上司から与えられるものではなく、まず自らが考えて上司との個人面談を通して十分に話し合っ決めてることになっており、社員の自発的な行動を促す仕組みとなっています。

■褒める社風の定着 ～社員表彰制度～

会社や社会に貢献した社員を全員で褒め称えるために、以下の4つの表彰制度を制定し、広く社内に公開しています。

1. 永年勤続表彰
2. 白崎MVP
3. 改善提案優秀賞
4. 5S大賞

特に白崎MVPは2001年から続いており、社員相互により推薦された中から選抜されます。それらはすべてが公開され、ボランティア活動や他部門との連携・協力など、自分の業務以外の功績による推薦も多数見受けられます。

2. 地域社会とともに

企業も社会の一員であると考え、積極的な社会貢献活動に取り組むことにより社員の社会貢献意識を高めています。さまざまな活動を通じて地域の方々との交流を図り、地域社会と共に成長していきたいと考えています。

■環境教室

地元の小学生を工場見学に招待し、最初にリサイクルや環境保護に関する説明を当社の事例を挙げながらセミナー形式で行い、その後で工場の製造現場に入って実際に物づくりの作業を見てもらうというものです。小学5年生児童の環境に関する課外活動として学校単位で参加していただいておりますが、工場内に子供達の元気な声が満ち溢れ、また積極的な質問が次々に出てきて環境への関心の高さに驚かされました。環境教室を通じて子供達の環境を大切にしたいという想いを高めていくお手伝いができればと考えています。

■NPO法人への支援

NPO法人「緑地雑草科学研究所」は、人々の生活圏の緑地環境を創り向上させることを目的として設立されました。そのNPO法人を支援することにより適切な雑草の制御技術や利用技術の確立と普及活動に貢献しています。

■納涼祭

近隣住民の方々を福井工場に招待しての納涼祭は毎年恒例の行事として定着しています。当社のOBの方々も多数参加され、社員と一緒に焼きそばや焼き鳥、イベントなどを楽しむ交流の場として非常に好評をいただいております。2012年からは若手社員が中心となって企画から実施までの運営を行い、若手社員と他部署の社員とのコミュニケーションを深める良い機会にもなっています。

【3】 環境保護活動の実績

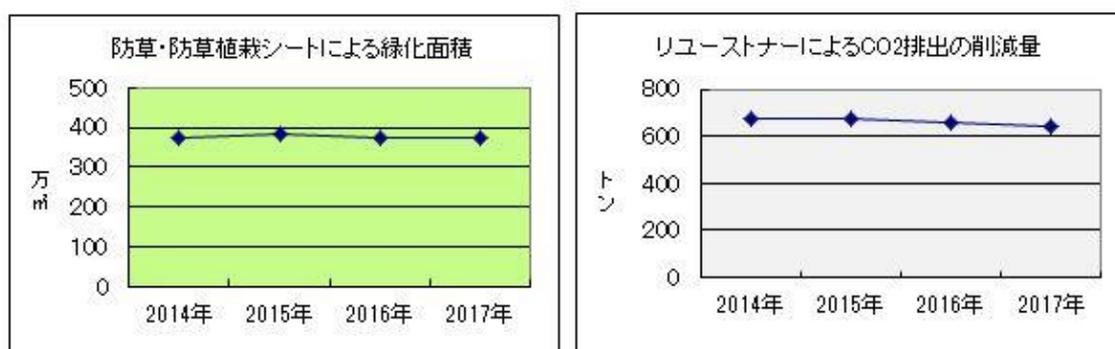
当社では限られた資源を有効に活用し、できるかぎり環境に負担をかけない企業活動に全事業所で取り組んでいます。

■防草緑化事業による環境保護

雑草を抑える防草シートや雑草を抑えながら目的の植物を育てる防草植栽シートを施工することにより、公園や道路の法面、太陽光発電施設等の雑草問題を解決して、貴重な緑地資産の価値を高めることが出来ます。また、低コストでの管理が可能になるため、維持にかかるエネルギーを削減しながら社会の景観美化を推進することが出来ます。2017年度は376万㎡の緑化を行いました。

■トナーカートリッジリユース事業による環境保護

トナーカートリッジ本体を再利用するリユーストナーカートリッジは、限りある資源を有効に活用する循環型社会を構築するうえで重要な役割を担っています。リユーストナーカートリッジを使用することにより、本体のプラスチックの原料である原油をカートリッジ1本あたり2.6リットル削減できるという効果があります。また、リユーストナーカートリッジは本体のプラスチックの製造や廃棄処理におけるCO₂の排出量の削減にもつながるため、1本あたり3.4キロのCO₂が削減できるという効果もあります。2017年度は641トンの排出量削減につながりました。



■廃棄物のリサイクル

工場の生産工程で投入される材料や資材のロスを低減する、コピー用紙の再利用を行うなど、社内の省資源化に努めています。また、発生したトナーカートリッジ等の廃棄物はプラスチックの原料や金属資源として、梱包材等に使用されていたプラスチックの廃棄物は梱包用ラップの原料としてリサイクルすることにより、資源の有効活用を行うと同時に最終処分量の削減に努めています。

■太陽光発電の導入

太陽光発電のメリットはクリーンな自然エネルギーであり、地球温暖化の原因となるCO₂の削減に大きく貢献できます。現在、当社が所有している太陽光発電所には鯖江太陽光発電所（福井県鯖江市）、三国太陽光発電所（福井県坂井市）、鹿児島太陽光発電所（鹿児島県鹿屋市）の3箇所があり、2017年度は約108万キロワットの発電を行いました。これは、当社の全事業所で使用している1年間の電力量の約2倍にもなります。

また、これらの太陽光発電所にはグリーンナップ事業部で販売している「太陽光発電用防草シート」が使われており、太陽光発電の障害となる雑草の繁茂を長期間抑えることで、効率の良い発電を維持することが出来るようになっています。



会社概要

会社名	: 株式会社白崎コーポレーション
設立	: 1955年7月2日
資本金	: 9,800万円
代表者	: 代表取締役社長 白崎弘隆
従業員数	: 139名(男84名、女55名)
事業内容	: 防草シート、防草植栽シート、その他緑化資材の開発・製造・販売 リユーストナーカートリッジの設計・製造・販売 トナーカートリッジ、インクリボン、その他事務用消耗品(OAサプライ品)の購入販売
本社・工場	〒916-0076 福井県鯖江市石生谷町11-23 TEL: 0778-62-2200 (代表) FAX: 0778-62-3336 (代表)
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-3 小西ビル TEL: 03-6892-4400 (グリーンナップ事業部直通) TEL: 03-3667-9881 (サプライビジネス事業部直通) FAX: 03-3667-9880 (共通)
西日本営業所	〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通3-90-1 尼崎K. Rビルディング TEL: 06-6430-1713 (グリーンナップ事業部直通) TEL: 06-6430-1711 (サプライビジネス事業部直通) FAX: 06-6430-1715 (共通)
九州営業所	〒812-0042 福岡県福岡市博多区豊1-6-25 TEL: 092-473-1452 (グリーンナップ事業部直通) TEL: 092-473-1430 (サプライビジネス事業部直通) FAX: 092-473-1436 (共通)
福井物流センター	〒915-0801 福井県越前市家久町27-1-1 TEL: 0778-42-8353 (注文業務窓口) FAX: 0778-42-8515 (注文業務窓口) TEL: 0778-21-8500 (倉庫業務窓口) FAX: 0778-21-8502 (倉庫業務窓口)



沿革

1949年	個人創業
1955年	白崎テープ工業株式会社設立
1994年	白崎テープ株式会社と株式会社羽田が合併 株式会社白崎コーポレーションに称号変更、鯖江市石生谷町に本社設立
1996年	防草緑化事業への参入、トナーカートリッジ再生事業への参入
1997年	西日本営業所開設
1999年	九州営業所開設
2001年	ISO14001全事業所認証取得
2004年	ISO9001全事業所認証取得
2005年	ホールディングカンパニー制に移行
2011年	事業会社を統合
2012年	済南古菱納普商貿有限公司設立